

エアロビック競技における 新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

本ガイドラインは、2020年5月25日にスポーツ庁より配信された「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン(以下、スポーツ庁ガイドラインという)」に基づき、エアロビック競技における感染拡大予防の方針を示すものです。なお、日々多くの公的機関からCOVID-19に関する最新情報が更新されておりますので、今後の知見の集積及び各地域の感染状況を踏まえて、逐次改定される可能性がありますのでご承知おきください。

I. 目的

新型コロナウイルス感染症の予防法として重要視されていることは、飛沫感染防止対策として「3密を避ける」「咳エチケット」「身体的距離の確保」「マスクをして周りの人に飛沫を飛ばさないように配慮する」、接触感染防止対策として「こまめに手を洗う」「手指消毒」です。本ガイドラインでは、エアロビック競技の特性と活動の段階的な利用計画として配慮すべき点を示します。

II. エアロビック競技に関する基本的考え方について

エアロビック競技は、各種目により活動場所の状況が異なりますので、それぞれの状況に合わせた対応を考える必要があります。基本となる公式競技の「シングル部門」以外は「ミックス・ペア部門」「トリオ部門」「グループ部門」など“組み物”も多く、フライト競技に至っては普及種目としてマスで動く楽しさに重きを置いていることもあり、競技方法の変更やルールの変更が必要な種目と考えます。

その上で、競技以外の場面での「3密を避ける」「身体的距離の確保」「他者との接触を避ける」を実現することで、国や都道府県の方針に従う徹底した感染拡大防止策を施し、関係各所の理解が得られていれば、その活動は可能であると考えています。

III. エアロビック競技における留意点

エアロビック競技は、体育館フロアやエアロビック専用フロアを使用します。競技会場の消毒は奨励されますが、利用者が使用した後に都度消毒することはその活動において非効率ですし、安全な利用に支障をきたす可能性が出てくると考えます。そのため、エアロビック競技会/イベントにおいては、フロアの都度消毒ではなく、利用者から感染者や感染の疑いのある者を可能な限り排除することに主眼を置き、利用する前の利用者が消毒を徹底することを感染拡大防止対策の柱とすることを奨励します。

なお、本ガイドラインにおける「利用者」とは、選手のみならず大会役員や指導者、審判員、スタッフ、観覧者など、競技会/イベントに参加する関係者全員となります。たとえば施設管理者や清掃員などはこの利用者に含まれません。

IV. 競技会/イベント開催時の注意点

1. 開催の可否判断

本資料は競技会/イベント活動の可否の基準を示すものではないため、開催にあたっては、政府や開催地都道府県の方針に従うことが大前提であり、開催や実施の判断に迷う場合は、開催地とその施設が所在する都道府県のスポーツ主管課や衛生部局等へ相談してください。

なお、開催や実施にあたっては、会場の施設管理者と事前に連絡をとるなどして、会場が定める感染対策

措置/判断に従うことを前提とします。

2. 開催準備

(1) 参加募集時の広報/周知

利用者に対して、以下について事前に周知します。なお開催都道府県の状況により、選手以外の帯同者(コーチ、家族、友人等)の制限を行うこと、来館可能時間/来館可能人数の制限を行うこと、場合によって”無観客”競技会/イベントとする場合もあることを予め告知してください。

a. 健康管理の徹底

(ア) 競技会/イベント当日、以下の事項に該当する場合は自主的に参加を見合わせることを、競技会/イベント受付時にも検温及び以下の事項の確認を行うことを大会募集要項等に明記する。

- ・体調がよくない場合 (例:37.5度以上の発熱・咳・咽頭痛・倦怠感などの症状がある場合)
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

(イ) 大会/イベント終了後、2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

b. マスク着用、手洗い・手指の消毒と衛生管理の徹底

(ア) 利用者は、会場入場時にはマスクを持参し、参加受付時や着替え時等の競技以外の場面、特に会話をする際にはマスクを着用すること。

(イ) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。タオルなどの共有は行わない。

(ウ) 会場への持ち込み品を最小限にとどめ、その衛生管理を徹底すること。特に食品や飲料を持ち込む場合は指定された方法で処理するか、持ち帰ること。

(エ) 使用済みマスク、鼻水・唾液などが付いたごみはビニール袋等に入れて密閉して縛り、指定の場所に捨てるか持ち帰ること。

c. 社会的距離(最低 1m、できるだけ 2m を目安にする)確保の徹底

(ア) 利用者は会場内ではできるだけ来場者同士の接触を控え、大きな声で会話、応援等をしないこと。

(イ) 座席は一つおきのみ着席可とするなどの措置をとる場合があること。

(ウ) 開会式、表彰式など参加者を整列させるなどの必要がある式典は行わない場合があること。

d. 差別防止と本ガイドライン及びこれをふまえた現場の対応方針の徹底

(ア) SNS 利用を含め、利用者に体する差別的な発言/行動をしないこと。

(イ) 本ガイドラインに記載されていない状況/事態が発生した場合は、会場の施設利用者及び大会主催者の指示に従うこと。

(2) 主催者が準備等すべき事項

a. 会場内外の動線

(ア) 利用者が会場入場時に並ぶなどが予測される場合は、あらかじめ社会的距離を保てるよう、立ち位置にテープを貼るなどの措置をとり、必要に応じてスタッフを配置し注意喚起を行う。

(イ) 利用者がその活動に必要な場所だけを使用し、不必要な場所には立ち入らないよう、案内板などを工夫する。特に飲食については、指定場所を設ける。

(ウ) 更衣室、待機スペースは感染リスクが比較的高いと考えられるため、以下に配慮して準備する。

- ・広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避けること。ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じること。

- ・換気扇がある場所では常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮すること。狭い部屋での空調使用は感染拡大につながるため、極力使用を避けること。使用する場合でも、ドアを開けておく等の指示をすること。

b. 飲食物の提供

- (ア) 弁当など飲食物を提供する会場/部屋には、必ずアルコール消毒剤を用意する。
- (イ) スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供すること。
- (ウ) 果物等の食品については、参加者が同じトング等で大皿から取り分ける方式を避け、一人分を小皿に取り分けたものを参加者に提供するなど工夫を行うこと。
- (エ) 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること。

3. 競技会/イベント当日の対応

(1) 体調管理の申請

主催者は、競技会/イベント会場に入場する全ての利用者に「体調チェック票」を記入させ、個人情報に留意して管理/保管する。記入あるいは提出を拒む関係者の入場は不可とする。

(2) 大会/イベント会場

- a. 選手受付時は、時間や部門を調整し、周囲の利用者となるべく距離(少なくとも2m)を空けるなど、競技までの導線を予め定める、時間を切って事前練習を行うなど工夫する。必要に応じてスタッフを配置する。
- b. 大会ではリザルト(審査結果)の会場内での張り出しは行わず、大会後にオンライン掲載するなど工夫する。
- c. 審判員席設置の際は、審判員間の距離(最低1m)を確保する。場合によりフェイスシールド等を準備する。

(3) 式典等

- a. 開催地の状況を鑑み、必要に応じて開会式、閉会式など参加者を整列させるなどの式典は行わない。
- b. 表彰式を行う際には選手間に十分な社会的距離を確保し、握手等の身体接触を行わないよう指導する。

(4) 審判員会議/スタッフ打ち合わせ

- a. 大会/イベント前後の、審判員会議は極力行わず、事前のオンライン会議等を設定し、会議室に集まる機会を減らすよう工夫する。
- b. 筆記用具など備品の共有を極力避けるように準備する。
- c. 昼食時などは、社会的距離をとれるよう配慮する。

4. 競技時の留意点

主催者は、参加者に対し、以下の留意点や利用者が遵守すべき内容を周知・徹底すること。

(1) 公式競技

- a. 組み物(ミックス・ペア、トリオ、グループなど)の際は、ルールの変更(必須リフトの廃止等)を検討する。
- b. エンジョイ・チーム部門など、大人数が密になりやすい競技は中止する。

(2) フライト競技

- a. 周囲の人の呼気の影響を避けるため、可能であれば前後一直線に並ぶのではなく、横並にする、あ

- るいは斜め後方に並ばせる。いずれの場合もなるべく距離(少なくとも3m以上)を空ける。
- b. リーダーは移動の大きなリードをとらない配慮をする。
 - c. 審判員は、選手の中に入らずに審査を行うなど選手との距離を保つこと。

5. 危機管理体制

感染症感染者、あるいはその疑いのある者の入場を防ぐことを徹底的に実行することになるが、万が一、感染者が出るなど緊急事態が生じた場合、以下の処置をとり、緊急事態時の連絡体制を明確に確立しておく。

- a. 感染が疑われるものが発生した場合、以下の通り対応する。
- b. 速やかに別室へ隔離を行う。対応するスタッフは、マスクや手袋の着用等適切な防護対策を講じた上で対応する。
- c. 感染者が発生した部屋の換気を行う。
- d. 主催者は保健所へ連絡し、消毒や濃厚接触者調査の指示を受ける。
- e. 感染者と接触した利用者等の氏名及び緊急連絡先名簿を作成する。
- f. 症状が重篤な場合は、保健所と相談し、医療機関へ搬送する。

6. 関連情報(参考)

その他、関係機関の関連情報も参考まで確認しておいてください。

- ・文部科学省 スポーツ文化に関する情報

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00019.html

- ・スポーツ庁 新型コロナウイルス感染対策スポーツ・運動の留意点と、運動事例について

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/jsa_00010.html

- ・内閣官房ホームページ(新型コロナウイルス感染症対策)

<https://corona.go.jp/>

7. その他

- ・大会の入場者には添付の「体調チェック票」を活用してください。
- ・エアロビック教室運営については、別掲の感染拡大防止ガイドラインをご参照ください。

以上

体調チェック票

※以下の個人情報は、コロナウイルス感染拡大対策以外の目的で使用することはありません。

記入日	2020年 月 日	氏名	
役割	選手 ・ コーチ 関係者 ・ 観覧者	年齢	
住所			
日中連絡可能な連絡先電話番号			

体温	度 分
----	-----

◎今日および過去2週間以内の体調について確認します。以下の項目にあてはまるものすべてにチェック ✓ を入れてください。

※すべてにチェックが入った方のみご入場できます。不安な方はスタッフにお声かけください。

- 平熱を超える発熱はしていない
- 鼻水やくしゃみ等風邪の症状(軽症も含む)はない
- 咳(せき)、痰(たん)、胸部に不快感はない
- だるさ(倦怠(けんたい)感)や息苦しさ(呼吸困難)はない
- 嗅覚や味覚に全く違和感がない
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人はいない
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航はしていない。当該在住者との濃厚接触もない